



女性のまなざしでしなやかな社会を

WE

特定非営利活動法人
ウィメンズアイ

2024年度活動報告書・決算報告書
2024年6月～2025年5月

2024.6-2025.5

アクティブ・ウーマンズ・カレッジ第7期

— 自分と地域を見つめ直す、小さな一歩の6か月 —

気仙沼市の委託を受け、WEが企画・運営する全6回の連続講座。今期は9名が参加し、満足度は97%でした。地域で活動する女性のリアルな経験を聞きながら、自分の「好き」や「得意」、そして「本当はやってみたかったこと」と丁寧に向き合います。対話とワークを重ねるなかで、受講生同士が互いの強みを言葉にし合い、自分では気づかなかった「新しい自分」を発見していきます。最終回には、その気づきやこれからの想いを込めた「自分だけの名刺」を手に、市長と一対一で名刺交換。少し緊張しながらも、自分の言葉で未来を語る姿は、とても誇らしいものでした。受講前は自己効力感が低い傾向にあった参加者も、講座後には顕著に上昇。自分を信じて一歩踏み出す力が、確実に育まれました。修了生同士のつながりから、マルシェの企画や起業準備など、新たな挑戦も生まれています。AWCは、女性たちの小さな一歩が、地域をあたたく動かす力になると信じています。



今年も逗子市で活動する小野寺愛さんから世界とつながる地域活動を聞き、受講生と卒業生が刺激をもらいました。

デジタルカレッジUP第1期・第2期

地域の女性がデジタルスキルを習得し、就労やキャリアの選択肢を広げることを目的に、「デジタルカレッジUP」(通称デジカレ)第1期と第2期を実施しました。第1期は2024年5月から9月に、基礎から応用までのExcelやITリテラシーを学ぶ3か月のプログラムを提供し30名が受講。第2期は12月から3月に開講し、気仙沼に加え登米・陸前高田・大船渡など広域から28名が参加しました。オンライン学習と対面講座、個別サポートを組み合わせた伴走型の運営により、業務に直結するスキルを身につけるとともに、自己肯定感の向上にもつながりました。修了後のアンケート分析では、業務効率や情報共有、データ表現など具体的なスキルの向

上が確認され、受講生の多くが学びを日常の業務や今後の働き方に活かしています。デジカレは、地域女性の就労機会とデジタル力の底上げだけでなく、学びを継続し支え合う仲間とのつながりを担う場となっています。



3回の対面講座では、テキストコミュニケーションなど実践的なスキルを学んだ



旧中学校を活用したシェアオフィス「ITベース大島アスナロウ荘」で開催。



主催:ウィメンズアイ、共催:気仙沼市、協力:ロクシタン、True Data、他

「女性・子育て層のためのビジネススキルアップ講座」

— 仕事につながるスキルを地域で学ぶ —

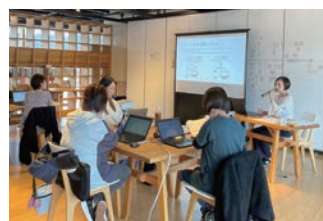
地域で暮らしながら働きたい女性の声に応える学びの場として、本講座を開催しました(主催：気仙沼市地域雇用創造協議会 企画・運営：ウィメンズアイ)。全5回の講座には、のべ68名が参加しました。インターネットを使った求人検索からスタートし、実際に求人サイトを操作しながら、自分に合った働き方や求人の見つけ方を体験。就職活動の不安が「具体的な一歩」に変わりました。また、これから増えていく働き方の一つとしてリモートワークの基礎も学習。



国内No.1 求人サイトIndeedを活用し、時間と場所を選ばずインターネット求人検索を体験しました。



Indeed Japan(総社員との1 on 1セッション)が行われました。



googleドライブ(クラウドシステム)を活用したデータの保存・共有を学びました。

デジタルを活用できる仕事に就くこと、仕事のスキルアップに向け、仲間と学びを深めています。



ZoomやSlackといったコミュニケーションツールや、オンラインでの円滑な仕事の進め方について、講師と共にスモールステップで学びました。講座の中盤では、デザインツール“Canva”を用いたチラシ作成やSNS発信の基礎にも挑戦。参加者からは「自分が思っていた以上に表現ができた」という喜びの声が聞かれました。このような基礎的なスキル習得講座を通じて、地域の女性たちが自分らしい働き方を見つける支援を続けています。



オンライン業務代行サービス「リモートさん」からリモートワークについて学びました。



オンライン業務に必要な不可欠なZoom、チャットツールなどを学びました。



自分の特性から自身が望む働き方を見つける適職診断を行いました。



診断結果の読み解き方を熱心に講師から学び、今後のキャリア形成に生かします。



人気の高いデザイン作成ツール「Canva」の基礎を学びました。



Canvaの基本的な使い方を学び、各自でチラシ作成に取り組みました。

大谷海岸 オフィス「ミモザ」



子育て中の女性が働きやすい職場を目指す場

女性がライフスタイルに合わせて継続的に働きながらスキルアップできる「オフィスミモザ」事業にWEは参画しています。本事業は、IT分野における女性の雇用機会を創出し、特に子育て中の女性が安心して働ける環境づくりを目的としています。2022年春に開設された「大谷海岸オフィスミモザ」は、気仙沼市、(株) True Data、NPO法人「人間の安全保障」フォーラムとの包括連携協定に基づきスタートしました。2024年5月からはTrue Data社からの業務をWEが受託し、地域在住の女性がデータメンテナンス業務に従事しています。初年度は、業務を正確に遂行することを積み重ねてきましたが、事業開始から約10か月を経て、次のステージとして、業務のチェック機能を自分たちで担う体制づくりに挑戦を始めました。また、子どもの発熱や学校行事など、家庭の事情に応じて柔軟に対応できる体制を大切にしています。ミモザは単なる就労の場ではなく、「地域で働き続けられる」モデルを育てる拠点です。今後も、女性たちが安心して挑戦できる環境づくりを進めていきます。

南三陸子そだてハッピープロジェクト

南三陸町に暮らす子育て中の女性たちとともに、子育て環境の改善を目的とした取組みを進めてきました。子育てをしながらも自分の思いを言葉にし、社会や地域と関わる機会をつくることで、女性たちが地域の担い手として役割を広げています。こうした地域に根ざした活動が評価され、「南三陸子そだてハッピープロジェクト」は公益社団法人気仙沼法人会が主催する令和5年度社会貢献大賞（子育て交流部門賞）を受賞しました。

なかでも力を入れているのが、南三陸町と任意団体「みなはび」と共催している子育てに関するタウンミーティング「みんなで子育て作戦会議しゃべりば」です。今年度は2回開

催し、延べ45名が参加しました。参加者からは「日頃感じている悩みを共有できた」「行政や支援者と直接話す機会になった」といった声が聞かれ、地域全体で子育てを支える意識の醸成につながっています。

<開催実績（抜粋）>

	実施日	主なテーマ	参加者
第二回	2024年7月21日	妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援	参加者19名、キッズスペース利用12名
番外編（みなはび主催）	2025年2月2日	未就学児・小学生の居場所づくり、体験格差の解消	参加者26名、キッズスペース利用18名

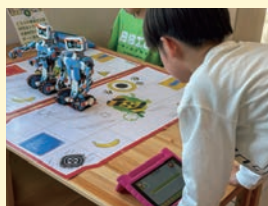


子どもの成長段階に合わせた子育ての悩みを付箋に書き出し、共有しました。

みなはび主催で開催した番外編にも、多くの参加者が集まりました。

子どもの居場所「みらいと」

子どもたちが安心して過ごし、やってみたいに会える居場所「みらいと」では、年間460人の子どもが来所しました。日常の遊びや学びに加え、ゼリーせっけん作りやラテアート体験、グミ作りといったものづくりのほか、生成AIやプログラミングに触れるデジタル体験など、多様なプログラムを実施しています。地域の団体や専門人材とも連携し、子どもたちの興味関心を広げる機会をつくってきました。初めは緊張していた子どもが、回を重ねるごとに自分から関わり、挑戦する姿へと変化していく様子も見られます。「また来たい」と思える場であることを大切にしながら、一人ひとりのペースに寄り添い、地域の中で安心して育つ環境づくりを続けています。



2022年11月、子どもの第3の居場所としてスタート。

助成：米日財団（助成先：NPO法人HSF）
本事業は立ち上げ段階からWEが連携して実施しています。

地域子育て支援拠点事業ママと赤ちゃんのサポート「ゆるりん」

ママと赤ちゃんのサポート「ゆるりん」は、月に2～3回開所し、延べ40組の親子が参加しました。参加者の多くは、初回利用時には緊張が見られましたが、回数を重ねるうちに、親子で安心して過ごすようになり、他の親子との交流が生まれるようになりました。



乳児親子の交流を目的とした「0歳さん、あつまれー」の様子

おやつ会では、子どもの見守りサポーターの協力を得て、手作りのおやつを提供しました。また、絵本の読み聞かせやベビーマッサージ教室など、地域の女性たちを講師に招き、親子で参加できるプログラムを実施しました。

今後も、地域における子育て中の親子の声を丁寧に受け止めながら、継続的な支援の場として運営していく予定です。



ゆるりんスタッフ（左：阿部、右：菅原）

*本プロジェクトは、赤い羽根共同募金テーマ型募みやぎチャレンジプロジェクト助成のご支援をいただいています。

出張マルシェ「小さなたがい市」

地域の女性が主体となる小規模事業者と南三陸社会福祉協議会が中心となり、運営・実行している「小さなたがい市」は6年目を迎えました。震災後、高台移転により、商店まで距離が遠く、移動手段が限られている高齢者の方にとって、買い物の機会であると同時に、人との交流できる大切な場となっています。

また、今年度から南三陸町では予約型乗合バス [Smart

GOTO]の運行が始まり、他地域で開催される「小さなたがい市」へも参加しやすくなりました。これにより、他地区に暮らす人との交流も生まれています。

2024年度は4月から11月までに計6回の出張マルシェを開催しました。昨年度より出店店舗が増え延べ621人の来場者を迎えることができました。

パン菓子工房 oui

パン・菓子工房ouiでは、材料費や光熱費の高騰など厳しい状況が続く中でも、製造工程や販売方法を工夫しながら、オリジナルパンの製造・販売を継続しています。地域内外のイベントやマルシェ「東京蚤の市」の出店を通じた販路開拓にも力を入れ、2024年度は計12回の出店を行いました。県内各地での出店に加え、東京で開催される大規模マルシェへの初出店にも挑戦しました。こうした取組みは、売上の確保にとどまらず、南三陸町の食材や麦づくりなど、地域の取組みを広く発信する機会となっています。



6月収穫期を迎えた麦畑



ouiで定番商品として親しまれているベーグル

グラスルーツ・アカデミー東北 2024 in 福島



本プログラムは、ロクシタン・ジャパンの助成を頂き開催

東北3県で活動する女性たちが互いに学び、つながりを深める場として「グラスルーツ・アカデミー東北2024 in 福島」を7月19日～21日の3日間、福島県檜葉町で開催しました。岩手・宮城・福島から9名が参加し、それぞれの活動や葛藤を共有しながら、自分の軸をあらためて見つめ直しました。ロクシタン・ジャパン中原奈都子氏とウィメンズアイ代表による座談会では、アカデミーを続ける意義や地域に根ざす実践について語り合いました。さらに、社会課題を構造的に捉えるワークを通じて、自身の活動と社会との関係性を整理しました。本アカデミーは、地域で挑戦を続ける女性同士が支え合う、確かな学びの機会となっています。

女性と女の子の相談窓口

「女性と女の子の相談窓口」を通年で開設し、女性相談員3名が南三陸町、気仙沼市、登米市をはじめとする近隣自治体の女性たちからの相談に対応しています。2024年度には、計240件の相談に対応しました。相談方法は、電話相談、随時受け付けているメール相談、予約制による対面相談など、利用者の状況やニーズに応じて柔軟に対応できる体制を整えています。また、必要に応じて出張相談も行っており、登米保健所内で5件、気仙沼市内で4件対応しました。

さらに、アウトリーチ活動としては、南三陸高等学校の学習支援を行う「志翔学舎」への月2回の定期訪問に加え、2024年9月からは登米市内の小学校の「放課後遊びプロジェクト」へ月に1回訪問しました。

*この事業にはネット寄付サイトGive One、隈研吾事務所刺し子ジャケットチャリティプロジェクトの寄付を活用しています。
*事業の一部は「みやぎの女性つながりサポート型支援事業」の一環として、宮城県の補助金を用いて行いました。



男女共同参画セミナー

～みやぎ女性活躍ネットワーク事業～

2024年12月、宮城県「みやぎ女性活躍ネットワーク事業（気仙沼・登米地域）」の一環として、映画上映会『〇月〇日、区长になる女』を南三陸町にて昼夜2回開催しました。参加者は計59名で、そのうち町内からの参加は45%でしたが、近隣自治体からの参加が半数を超え、本テーマへの関心の高さがうかがえました。同町では、ジェンダーギャップ解消に向けた取り組みが今後の課題とされる中、本事業は地域に新たな問題提起を行う機会となりました。参加した女性たちの問題意識は高く、上映後、多くの質問や意見交換が行われました。女性たちが安心して対話できる場を継続的につくとともに、地域や家庭における固定的な価値観を更新していく機会を、今回のような映画鑑賞など参加しやすい形で重ねていくことの重要性が確認されました。



上映後の監督トークセッションの様子。撮影秘話や作品への思いが語られました。

講師派遣

～2024年～

- 6/1 大阪いきいき財団(視察受入：栗林)
6/20 東洋英和大学「女性のリーダーシップについて」(講師：栗林)
7/2 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ「公共性の高い地域の女性のプロジェクトについて」(講師：石本)
9/6 土木学会(視察受入：栗林)
10/1 国立女性会館パネルディスカッション「男女共同参画の視点による災害対応研修」(登壇：石本)
10/7 JICA北九州 研修「行政官のためのジェンダー主流化政策2025」(講師：栗林)
11/9 LA日本総領事館プログラム「危機の時代におけるコミュニティのレジリエンス強化」(登壇：石本)
11/10 一関市、女性向け講座「チャレンジママたちの座談会」(講師：栗林)
11/29 気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会、研修会(講演：栗林)
12/10 茅ヶ崎ロータリークラブ卓話「社会課題の根本解決とは」(石本)
12/20 アチェ津波被災20周年記念イベント(登壇：栗林)

～2025年～

- 2/4 みやぎの女性活躍促進サポーター養成事業(登壇：栗林)
2/25 JICA「トルコ被災地における女性企業家支援セミナー」トルコ・カフラマンマラシュ(講演：石本)
2/26 宮城学院女子大学 第1回ジェンダー・カフェ(講師：石本)

2024年度決算報告(概要) 2024年6月1日～2025年5月31日

(単位:円)

経常収益	44,277,645	経常費用	49,339,797
助成金・補助金	23,193,340	プロジェクト費	46,943,121
民間からの助成金(*1)	23,193,340	交流事業	287,053
寄付	1,675,925	人材育成事業	32,555,028
一般寄付	1,675,925	人材育成事業(ミモザ)	5,279,243
事業	19,336,452	広報事業	540,688
交流事業	132,370	うみさと暮らしのラボ事業	10,426
人材育成事業	7,156,385	うみさと暮らしのラボ事業 (パン菓子工房事業)	8,270,683
人材育成事業(ミモザ)	4,823,200	管理費	2,396,676
広報事業	1,097,367	経常外費用	300
うみさと暮らしのラボ事業	9,170	法人税、住民税及び事業税	72,893
うみさと暮らしのラボ事業 (パン菓子工房事業)	6,117,960	当期正味財産増減額	△ 5,135,345
その他	71,928	前期繰越正味財産額	22,040,798
		次期繰越正味財産額(*4)	16,905,453

*1 内訳：チャンネル財団、Yahoo!基金、東北ろうきん復興支援助成金、赤い羽根共同募金

*4 複数年度にまたがる事業へ助成金などが含まれます

Message from Women's eye

この1年

2024年度も、ウイメンズアイの活動にご関心とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

この一年、日本では物価高騰や人手不足が続く中で、女性の就業率は過去最高を更新しました。一方で、「働き続けられる環境」は地域ではまだ十分とは言えません。私たちは、現場で出会う一人ひとりの声から、その課題のリアルを受け取ってきました。

本年度も、アクティブ・ウーマンズ・カレッジやデジタルカレッジUPを通じて、女性たちが自分の思いや違和感に向き合い、行動へと踏み出すプロセスに伴走してきました。小さな一歩の積み重ねが、人と人をつなぎ、地域に変化を生み出しています。

また、オフィスミモザでの就労機会の創出や、相談事業、子育て支援の現場では、「働くこと」と「暮らすこと」を切り離さずに両立していくための試行錯誤を続けてきました。制度や仕組みだけでは解決できない課題に対し、現場から新しいモデルをつくっていくことの重要性を、改めて実感しています。こうした実践を個人の変化にとどめず、社会の仕組みへとつなげていくことが私たちの役割だと考えています。小さな一歩を社会の変化へとつなげていく。その挑戦を、これからも皆さまとともに進めていけたら幸いです。

引き続き、ご支援・ご参加のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

石本めぐみ

東日本大震災後の復興支援の経験から、地域が続いていくために女性の元気が欠かせないと気づきました。私たちの活動は皆様に支えられています。どうか、ウイメンズアイを応援してください。

クレジット決済寄付

寄付サイト Syncable を通してお手続きいただけます。マンスリーサポーター(毎月定額寄付)、あるいは今回のみ寄付をお選びください。

<https://womenseye.net/support>



寄付サイト Give one から、ウィの「女性と女の子の相談窓口」への寄付ができます(寄付金控除など税制優遇対象)

<https://giveone.net/index.html>



振込による寄付

右記連絡先宛に、お名前、ご連絡先、お振込予定日、領収書の宛名をご一報ください。

振込口座

〈銀行の場合〉

ゆうちょ銀行

金融機関コード 9900

店番：818

預金種目：普通

店名：ハチ八店(ハチイチハチ店)

口座名：特定非営利活動法人ウイメンズアイ

口座番号：1966320

〈郵便局からの場合〉

郵便振替口座：18190-19663201

口座名義：トクヒ)ウイメンズアイ



2023年6月、WEの事務所は南三陸町歌津に引っ越しました。この建物は、NPO法人南三陸ミシン工房様よりご寄贈いただきました。本当にありがとうございます。

WEのビジョン

いのちと暮らしを真ん中に自分をいかし歩み続ける女性たち

WEのミッション

- ①地域女性のエンパワーメント
- ②地域女性をとりまく環境を手入れする
- ③地域女性の声を内外に伝える

ブックレットのご案内

ローカル女子と未来をひらく

～ 災害復興と女性のエンパワーメント 2011-2020

(2021年9月刊行 B5判カラー)

本文52頁+表紙)

冊子版 1冊500円(税込)+送料

Kindle版 500円(税込)

amazonで
販売中 →



英語版はこちらのサイトで

無料公開しております

https://womenseye.net/wp02/wp-content/uploads/2022/12/booklet_E02.pdf

*英語版制作には米日財団のご寄付をいただきました

特定非営利活動法人ウイメンズアイ Women's Eye

ホームページ

<https://womenseye.net>

Facebook

<https://www.facebook.com/Womenseye20130604/>

Twitter

<https://twitter.com/womenseye1>

住所 〒988-0474

宮城県本吉郡南三陸町歌津字田表35-1

TEL 0226-25-9517

FAX 0226-25-9519

メール info@womenseye.net

○2024年度末(2025年5月31日)現在

正会員17名

スタッフ総勢：16名

○役員一覧

代表理事 石本めぐみ

副代表理事 橋高真佐美(弁護士)

理事 西村和代(株)カラースジャパン代表)

理事 清野浩司(中小企業診断士)

理事 田島誠(認定NPO法人環境エネルギー政策研究所)

理事 栗林美知子

理事 米倉京香

監事 成田由加里(公認会計士・税理士)

